

一般質問



まちづくり交付金事業の今後の動向について

第三セクターの現状と今後の展望について

佐々木 章

市税の徴収状況と収納対策について

質問 滞納繰越分についてどのような収納状況と対策をとっているのか。とりわけ額の大きい固定資産税、市民税の推移となぜ入湯税に滞納繰越あるいは未収が起きてくるのか。

市長 副市長を先頭に市税等収納対策本部を設置して来たところであるが、効果もあり努力すべき点が多いことから、十九年度も引き続き対策本部を継続する。

普通税の調停額は二億五千三百万円で、滞納繰越分として収入になったものが三千万である。

この分の徴収率は十八年度分として十二％、十七年度分は十％である。

固定資産税は十八年度九％十七年度も九％で、〇・一％の増であり、市民税については十八年度が二十四％、十七年度は十五％で九％の増である。

入湯税については経営の状況、その他の事情等で納めて頂けないケースが出てくる。ところだが、いろいろな方法で未納の回収に努めたい。

また不能欠損については、

一般税では二百八十九人で一千二百六十八万円、国保税が三百八人で一千七百十九万円となっている。

まちづくり交付金事業の今後の動向について

質問 まちづくり交付金事業は二十年度までの事業であるが完成に向けて市の取り組み方に理解出来ない面もある。駅東地区、市街地の活性化が計画通り進むのか。

市長 駅東地区は駅東中央線南北線の整備、さらには多目的広場、公園の整備事業等がある。

軟弱地盤を持った地域なので軟弱地盤対策工事に時間がかかっているが、二十年の完成に向けて取り組んでいる。

またNTT跡地利用は、武家屋敷中心とした今の観光客を市街地に誘客する事業であるが、これまでのいろいろな候補を調査して来たが、位置にふさわしい所では合意に至らず、最終的にNTT跡地になった。

議会に対しては産業建設常任委員会に数回協議を願っている。議会の意見も取り入れた中で六月十八日に事業変更を申請した。

認可がおり次第進めていき



工事が進む角館駅東地区

たい。

第三セクターの現状と今後の展望について

質問 仙北市が第三セクターにどのように関わっているのか。設置したときの趣旨、出資の形態、実情はどうなっているのか。

市長 市が出資している会社としては十社を超える。

五十％以上出資しているのはアロマ田沢湖、花葉館、西木村総合公社、西宮家、玉川ダム湖総合開発の五社であり、社長を務めているのはアロマ

田沢湖、西木総合公社、他は役員を派遣している。

設置については、それぞれ住民に対する福祉サービス、観光を主体としたケースもある。

質問の見直しの時期については、今、玉川ダム開発を除いた四社が連絡協議会を作り相互協力、相互支援策等を検討して三セクを有機的につなげることによって、プラス面が生み出せる可能性を探っているところなので、結論を出すまでは至っていない。